

**旭丘・小竹地域における保護者および地域説明会等で寄せられた
主な意見等に対する区の考え方**

I 小中一貫教育等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え方
1	○なぜ区は小中一貫教育の取組を進めているのか。	○区では、全ての小中学校で、中学校区を基盤として「学力・体力の向上」「豊かな人間性・社会性の育成」「安定した学校生活」を柱に、様々な連携活動を実施するなど小中一貫教育の取組を推進しています。
2	○魅力的な小中一貫教育校とするためには、ハード面だけでなくソフト面も充実させていく必要がある。	○区内における施設一体型小中一貫教育校としては、平成 23 年 4 月に、大泉桜学園を開校しており、現在、旭丘・小竹地域において 2 校目の設置に向けた検討を進めています。 ○9 年間の一貫した教育活動を活発に展開することができる施設一体型の利点を生かし、小中学校教員が一体となって学力・体力・豊かな心が調和した学びの充実を図っていきたいと考えています。
3	○準備期間中においても、施設一体型小中一貫教育校を見据えた教育方針・準備体制をとっていくのか。	○旭丘・小竹地域においては平成 23 年度から小中一貫教育に取り組んでおり、地域にある 3 大学との連携についても進めています。これまでの実績を踏まえつつ、準備期間中においても、新校の開校を見据え、引き続き、小中一貫教育の取組、教育内容の充実を図るとともに、保護者および地域の皆様からご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性をいかした魅力ある学校づくりを進めていきます。
4	○新校への入学希望者が増えるような学校にしてほしい。	
5	○新校における運動会等のあり方や大泉桜学園のような小学生からの部活動参加・標準服の導入等については、どのように考えているのか。	○新校の開校までは、学校改築を伴うことから、概ね 7～8 年程度の期間を要することが見込まれています。こうした準備期間の中で、新校の教育内容や行事運営等について、今後、保護者および地域の皆様からご意見を伺いながら順次、検討していきます。

No.	主な意見	意見に対する区の考え
6	○施設一体型と、他の学校との違いはどういったものか。	○区では、全ての小中学校で、中学校区を基盤として「学力・体力の向上」「豊かな人間性・社会性の育成」「安定した学校生活」を柱に、様々な連携活動を実施するなど小中一貫教育の取組を推進しています。
7	○施設一体型となることで、国立・都立・私立を含む他の中学校へ進学しづらくなるのではないか。	○施設一体型では、「教員間の連携強化」「異学年交流の活性化」「同一施設内での円滑な移行」等が可能になり、教育効果が高まることが期待できます。 ○施設一体型においても、他校と同様に各学年が当該学年の学習指導要領に則った学習内容の指導を行っています。また、中学校選択制度により、他の区立中学校へ進学を希望することも可能となっており、通学区域外の小学校からの入学者の受け入れも行います。国立・都立・私立を含め他の中学校への進学希望者についても他校と同様に学校側で対応を行うため、小中一貫教育校から他の中学校へ入学しづらくなるということはありません。
8	○新校にも、いじめや不登校等のケアについて、相談室などを設ける等の対策は行われるのか。	○スクールカウンセラーや心のふれあい相談員を配置するとともに、相談室を設けるなど、教育相談体制の充実を図っていきます。 ○また、施設一体型であることにより、小中学校間でも日常的に情報共有を行うなど、継続的に児童生徒や保護者等の支援を行うことができます。
9	○施設一体型の課題や大泉桜学園での改善点等を教えてほしい。	○施設一体型の課題として、人間関係の固定化や他の小中学校のように児童生徒が区切りを意識して新たな学校生活をスタートさせることが難しいことなどがあげられます。 ○こうした課題に対し、大泉桜学園では、Ⅰ期（1～4年）、Ⅱ期（5～7年）、Ⅲ期（8～9年）の区切りに応じた様々な異学年交流の実施等により、一人ひとりが個の成長を通して、より充実した人間関係が築けるように配慮しています。 ○また、小学校の卒業式と中学校の入学式を実施するとともに、学校行事等を通して、6年生がリーダーとして活躍する機会を設けることなどにより、小中の区切りの意識を醸成しています。

No.	主な意見	意見に対する区の考え
10	○旭丘小・旭丘中が小中一貫教育校となった際は、小中学校の教員がそのまま配置されるのか。	○小中学校の教員の配置や異動等については、他校と同様の基準となります。在籍している教員は、年度ごとの学校状況等により異動となる場合もありますが、計画的に人事配置を行っていきます。
11	○小学校の通学区域の見直しや学校選択制度を検討することはないのか。	<p>○新校における小学校の通学区域は、当面、旭丘小の通学区域を基本としています。小竹地域からの希望者の受け入れについては、保護者および地域の代表等で構成する小中一貫教育校推進委員会等の中で通学区域の特例の適用を検討していきます。</p> <p>○小学校の通学区域や学校選択制度については、地域とのかかわり、通学距離や交通安全等を十分に踏まえて、慎重に検討する必要があります。特別な事情があり指定校以外を希望する場合は、指定校変更制度で対応しています。</p> <p>【通学区域の特例について】</p> <p>○練馬区小中一貫教育推進方針（平成28年6月策定）では、施設一体型小中一貫教育校において、通学区域が重なる場合の指定校変更による受け入れについて柔軟に対応することとしています。区の施設一体型小中一貫教育校である大泉桜学園においても通学区域の特例を適用しています。</p>
12	○新校の検討状況等についてホームページ等で情報発信を行ってほしい。	<p>○説明会で使用した資料やいただいた主なご意見および区の考え、また、保護者および地域の代表等で構成する小中一貫教育校推進委員会の主な内容等について区ホームページに掲載しております。</p> <p>○また、地区内の自治会、近隣の幼稚園および保育所等にも資料をお配りするなど、引き続き、保護者および地域の皆様に対して検討状況等の情報発信に努めていきます。</p>

No.	主な意見	意見に対する区の考え
13	○全国学力学習状況調査の公表等の考え方は。	<p>○調査の主たる目的は、各校が学習状況の把握・分析を行い、教育の課題を検証し、改善を図ることにより、児童生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。</p> <p>○調査結果をもとに、設問ごとの正答率を分析し、課題のある設問を取り上げ、改善に向けた取組として授業改善推進プラン等を作成しています。調査結果等の公表については、各校の状況に応じて、ホームページや学校だより等を通じて行っています。</p>
14	○小竹小の今後の対応はどうか。	<p>○新たな小中一貫教育校の設置については、児童生徒数・学級数の現況および将来推計を踏まえ、旭丘小と旭丘中を先行して、準備を開始することとしています。</p>
15	○小竹小についても体育館の空調やトイレの改修等の整備を進めてほしい。また、ねりっこクラブを校舎内に設置してほしい。	<p>○小竹小については、今後の児童数の動向等を見定めつつ、引き続き、保護者や地域の皆様からご意見を伺いながら検討していきます。</p> <p>○体育館の空調やトイレの改修等については、施設状況等を踏まえ、必要な改修工事を実施していきます。</p> <p>○ねりっこクラブについては、学校応援団や地域の皆様と協議を進めていきます。</p>

II 学校改築等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
16	○設計の期間で行う内容など今後のスケジュールを示してほしい。	○令和2年度から基本設計、令和3年度から実施設計を開始することを予定しています。基本設計では、建物の配置計画、平面計画、建替計画等を、また、実施設計では、詳細な仕様等を決め、その後、建築に必要な諸手続きを行っていきます。
17	○新校舎の改築工事の進め方や工事期間中の仮設校舎の設置等はどのように行っていくのか。	○新校の改築工事の進め方、仮設校舎の設置等については、今後の設計の中で決定していきます。 ○工事期間中の児童生徒の教育環境や近隣地域への影響等について配慮しながら、工事期間の短縮等を含め検討を進めていきます。 ○今後、具体的な工事スケジュール等がまとまった段階で、保護者および地域の皆様にお示ししていきます。
18	○新校はどういった施設となるのか。	○旭丘小・旭丘中の現敷地を基本に、学校施設の改築にあたっては、どの学校も同水準の教育環境を確保したうえで、バリアフリーやICT化、児童の放課後の居場所確保など、今後の学校施設に必要な機能を確保していきます。
19	○旭丘小・旭丘中の間に道路があるが、どのように敷地を活用するのか。	○施設一体型の小中一貫教育校として、小学校1年生から中学校3年生が過ごす施設としての安全性の確保や小中学校の教員が連携しやすい職員室の整備、校庭や体育館、プールなどの運動施設の配置のあり方等を検討していきます。併せて、地域における防災拠点としての機能を有した施設整備を行っていきます。
20	○天候等が理由でプールの授業ができない日が増えている現状を踏まえ、プールの設置場所等について検討をしたほうがよい。	○施設一体型の小中一貫教育校として、小学校1年生から中学校3年生が過ごす施設としての安全性の確保や小中学校の教員が連携しやすい職員室の整備、校庭や体育館、プールなどの運動施設の配置のあり方等を検討していきます。併せて、地域における防災拠点としての機能を有した施設整備を行っていきます。

Ⅲ 施設の複合化について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
21	○新校に併設予定の児童館については、中高生も行きたいと思えるような施設づくりを要望する。	○第2次みどりの風吹くまちビジョン・アクションプランに基づいて、児童館の機能の見直しを進めます。中高生向けの事業の充実を図るとともに、施設の設備面についても検討していきます。
22	○新校の校舎内に学童クラブを設置してほしい。	○学童クラブの学校内設置については、第2次みどりの風吹くまちビジョン・アクションプランに基づいて、全小学校への設置に向けて鋭意取り組んでいるところです。 ○旭丘小については、新たな小中一貫教育校の校舎内に学童クラブ室を設置し、ねりっこクラブを実施していく予定です。
23	○新校開校の前に、現在の旭丘小の校舎内にねりっこクラブを作ってほしい。	○旭丘小については、新たな小中一貫教育校の改築計画に併せて、校舎内に学童クラブ室を設置し、ねりっこクラブを実施していく予定です。
24	○他自治体の学童クラブのように、小学校6年生まで利用できるよう検討してほしい。	○高学年については、当面の間、児童館等の併設学童クラブ、ねりっこひろば、学校応援団ひろば等において受入し、異年齢の児童との交流を通じて、児童の健全な育成を推進することとしています。早期に全小学校で「ねりっこクラブ」を実施することで、学校施設内で高学年を含むすべての子どもたちの放課後の居場所を確保していきます。
25	○新校に併設される複合施設に保育園を設置してほしい。	○区では、保育所待機児童解消に向け、民間認可保育所の新設等により、大幅な入所定員の増を図っています。 ○当地域においても、複合施設の完成を待つことなく、入所定員が十分確保される見込みです。そのため、複合施設内に保育園を設置する予定はありません。

No.	主な意見	意見に対する区の考え
26	○旭丘中の敷地内にある保育園の取扱いはどうなるのか。	○学校敷地内にある神の教会保育園分園については、学校改築に伴う仮設校舎工事開始前までに閉園を予定しています。また、分園の移転については、運営事業者との協議を基に可能性を検討しています。